



〈公開〉 生と死の物語

□会場 東洋英和女学院大学大学院
(六本木) 201教室
東京都港区六本木5-14-40

□最寄駅 六本木駅(日比谷線徒歩10分)
麻布十番駅(大江戸線徒歩5分、南北線徒歩7分)
□先着 100名様

□参加費 各回500円
本学院在校生・教職員無料
□事前申込み 不要

第7回連続講座

2018年 1月 13日(土)
14:40-16:10 (受付14:10~)

■プロフィール

上智大学大学院理工学研究科博士後期課程(生命科学基礎論)満期退学。産業医科大学講師、山口大学医学部教授、京都工芸繊維大学大学院教授などを経て現職。前・日本生命倫理学会代表理事・会長。本学大学院において死生学を担当。

■主要業績

「小さな死によせて」『死生学年報2016』リトン、2016。
「二つの「小さな死」—その邂逅の軌跡—」小山千加代編『サイエンスとアートと考える生と死のケア』エム・シー・ミュージック、2017。「老いにおける性と死」『死生学年報2017』リトン、2017。『生命の問い—生命倫理学と死生学の間—』東信堂、近刊。

大林 雅之

(おおばやし まさゆき) 本学人間科学部教授

死に向かう生と性 —老成学の視点から—

内容紹介：

高齢者の介護をめぐる問題の一つに「性」をめぐる問題があります。これは従来、回避すべき、隠蔽すべき問題として扱われてきました。しかし、近年では、肯定的に受容する方向での対応も見られるようになってきました。そのような試みとして、「ユマニチュード」と「性的支援」の二つの視点から事例を紹介し、その可能性について考えてみたいと思います。本講座では、高齢者を「死に向かう存在」として捉えることにより、「死」と「性」の関係性に注目し、「小さな死」という概念を手掛かりに議論を進めます。

第8回連続講座

2018年 1月 13日(土)
16:20-17:50

■プロフィール

金沢医科大学医学部卒業。順天堂大学医学部麻酔・ペインクリニック科学講座、総合病院衣笠病院ホスピス、神奈川県立がんセンター緩和医療科、順天堂大学医学部附属順天堂医院がん治療センターを経て現職。湘南中央病院在宅・緩和ケア部門長。医学博士。本学大学院人間科学研究所(宗教学分野)修了。人間科学修士。

■主要業績

「緩和医療現場における『お迎え』現象とその周辺」『死生学年報2014』リトン、2014。『「お迎え」されて人は逝く』ポプラ社、2014。『対話する死生学 喪失とともに生きる』ポプラノ出版、2016。「安心して生き、死に切ること—今改めて健康観について考える—」『死生学年報2017』リトン、2017。『今日も、日々の小さな奇跡を見つめて』大和出版、2017。ほか

奥野 滋子

(おくの しげこ)

順天堂大学医学部
客員准教授

終末期医療と看取りのいま

内容紹介：

自宅療養中の終末期患者、高齢者の救命センター搬送直後の死亡が増えています。本人が延命治療拒否でも、何もせず死なせてしまうことを恐れ、119番通報する人は少なくありません。しかし、救急要請は救命のためにあらゆる手段を講じることを意味し、安らかな最期を約束するものではありません。現在、自宅死を希望する人は55%を超えていますが、実際の自宅看取りは20%以下です。今回は、ほとんどが自宅死であった時代の人びとの老いや看取りに対する心の持ちようを探るとともに、どこでどう生きどう死にたいのか、自分の死生観について普段から考えておくことの大切さについて考えてみたいと思います。

〈予 告〉 2月17日(土) 開催 連続講座「生と死の物語」

第9回 尾崎博美「命の価値は「教え」られるか?—生と死を「学ぶ」授業実践を通して—」
第10回 福田 周「高村光太郎—智恵子抄 心の病に寄り添うということ」



お問合せ先

東洋英和女学院大学死生学研究所
shiseigaku@toyoeiwa.ac.jp
03-3583-4035 (fax専用)